



コース 12

# 天王川の川筋と津島湊 ~むかしつしまを想う旅~

オススメ 想像力豊かな人!



- スタート ↓830m
- ① 瑞泉寺の稚児門 ↓185m
- ② 車河戸 ↓60m
- ③ 左岸の堤防 ↓30m
- ④ 車河戸の屋台島 ↓65m
- ⑤ 猿尾・東堤 ↓180m
- ⑥ 津島湊と番所跡 ↓140m
- ⑦ 御旅所 ↓255m
- ⑧ 大イチョウ (馬場町) ↓1000m
- ⑨ 新堀川堤防 ↓100m
- ⑩ 旧天王川 ↓290m
- ⑪ 本町筋 ↓85m
- 観光交流センター
- ゴール
- 全長約 3220 m

現在では天王川公園に名を残すばかりの「天王川」は、かつて津島のまちを南北に貫く川でした。木曾川の分流足立川のことを津島の辺りでは天王川と呼び、津島の南で木曾川の支流佐屋川に注いでいたのです。津島は天王川の川湊「津島湊」として、ヒト・モノ・情報が集積する地域でした。天王川は時代を経るにつれ、治水による水量の変化や埋め立てによって形を変えていきましたが、今でも地形からかつての名残を感じられます。少し頑張っ歩いて、かつての水郷・湊町津島の姿を探ってみましょう!

作成：小路めぐりマップ策定部  
 岩崎勝明 望月義伸 加藤千晶 北澤興平 耕井敏子 大橋忠彦  
 恒川一三 橋本建夫

## 1 川筋前の瑞泉寺の稚児門



ここより少し西にある車河戸という天王川の入り江が入り込んでいて、この辺りまで船を寄せていたと言います。ここから児が小舟に乗って祭の本船まで行ったと伝わっています。ベネチアのような風景だったかもしれません。

## 2 何百年と変わらない車河戸



明治30年代に天王川は締め切られて丸池になりましたが、車河戸は縮小こそしても古地図の頃から姿をほとんど変えていません。

## 3 左岸の堤防



車河戸から天王川公園北側の御旅所へ向かう松並木の道は、かつての天王川左の堤防でした。今より堤は高かったとか…?

## 4 車河戸の屋台島



車河戸の屋台島は、以前は屋台島は5つあったのですが、現在は4つになっています。今車と下車の屋形が1つの島に置かれています。

## 5 猿尾・東堤を眺む



猿尾とは、猿の尻尾のように天王川の突き出した堤防を意味します。かつては松並木がありました。伊勢湾台風で多く倒れました。

## 6 津島湊と番所跡



津島は天王川の川湊としてにぎわいました。川湊の運航を司るため、このあたりに文禄2年、船番所が設けられ、番所は船会所に姿を変えつつ江戸時代末期まで湊は続きました。

## 7 御旅所



現在は堤が築かれ津島神社の御旅所となっていますが、かつてはここから北より天王川公園方面へ天王川が流れ、東西には天王橋という長さ六十五間の橋が架かっていました。

## 8 大イチョウ (馬場町) 昔の川岸



このあたりは天王川の西堤にあたり、馬場町の大イチョウは堤防に根を張っていたことになり。津島神社のご神木として大切にされてきました。かつてはここが津島神社の御旅所でした。

## 9 新堀川堤防

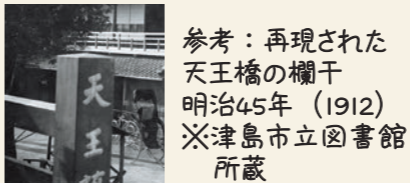


領内川につながる新堀川はかつての天王川の流路と重なります。

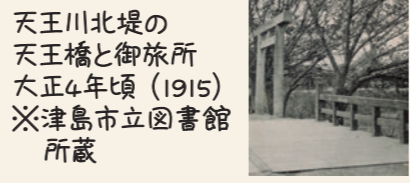
## 11 本町筋



本町筋は蛇行していますがこれは本町筋が天王川の自然堤防の上に形成された町であることを意味します。



参考：再現された天王橋の欄干  
 明治45年 (1912)  
 ※津島市立図書館所蔵



天王川北堤の天王橋と御旅所  
 大正4年頃 (1915)  
 ※津島市立図書館所蔵

## 10 旧天王川



天王川は江戸時代中期には天王川公園より北側は締め切られましたが、以降も日光川や領内川から新堀川を経由した水運が行われ、このあたりには材木屋がありました。